



第14号 昭和55年5月10日 社団法人 上田高等学校同窓会 印刷所 田辺印刷株式会社

### 校門と土塀大修理完成

#### 次は堀の浚渫に着手

上田高等学校の建物は藩公の居のあった場所近くに移動保存するの場所にあるが、旧藩時代の遺跡として現存しているのは校門と其の両側にある土塀と堀と、土蔵だけである。この門も寛政元年(1789年)六月十四日藩主屋形の失火により焼失し、翌年二月七日再建した。この門と土塀は昭和十二年校門屋根葺替え、土塀改築が果費で施行されることになったが、工事費不足により同窓会が金壹千円の援助費を寄附した。

### 創立八十周年記念事業

#### 祝賀会は十月十二日

上田高等学校創立八十周年記念事業は学校、PTAと同窓会が委員会を結成し、事業案を作成し、八千円円の予算で祝賀事業を行うことを決定したが、事業の推進は同窓会が主体であるので、同窓会理事会、幹事会、開催し、実行のための委員会が属々開催され、事業は次第に活気を帯びて来た。既に五月末日迄に寄附金が五千五百万円に達し、高額寄附者に対する免税措置も大蔵省より許可になったので、大口寄附もこれから増加すると思われる報寄附金は卒業期の幹事を中心に集められているが既に目標を達成した学期も出て来ている。寄附金は一口五千元とし同窓会員には二口以上の寄附を

尚講堂の前にあつた土蔵は今度の管理棟新設により取り壊しの運命になったので、同窓会は二百万円の予算で、校門の近くの奉安殿

お願ひしている。なお八十周年記念事業として名簿と校史が発行されるが、この代金は寄附金とは別扱いで、名簿は一冊三千元(送料を含む)で七月発行予定で、受付中。校史の発行は遅延する。なお、五万円以上寄附者には名簿と校史を無料で贈呈する。記念事業の主要なもの

- 1、造園環境整備(前庭、中庭の掘石、植樹、花壇等の整備)
  - 2、土倉の移転、改修
  - 3、合宿所及び同窓会館の改築
  - 4、記録保存
- 以上の他、名簿、校史の発行、祝賀会開催等が予定されている。祝賀会は上田市民会館で挙行する。

### 校舎改築工事進捗す

#### 昔日の倂今やなし

昭和五十一年八月より着工した普通教室二十四室の改築工事は五十二年完成した。それに続いて昨年七月から、校門の正面にあつた南北に長い平屋の校長室、事務室当直室のあつた懐かしい管理棟と、其の後にあつた大講堂を取り去られ、小使室も無くなり、土倉は校門の近くに移動し、学校の中央はがらんとした。この空地に昨年八月から管理棟(鉄筋三階建、広さ三、四七七平方米)が建設中で八月に竣工するが、総工費四億六千七十万円である。

### 総会は

#### 六月八日

この管理棟には一階に校長室、事務室、保健室、調理室、被服室が入り、二階には普通教室、職員室、図書室、会議室があり、三階に化学、物理、生物等の特別教室が並ぶ。東西に長い建物であるがこれと既に竣工している二十四教室を二階建の廊下で結ぶ。県教育委員会は校門の正面になる廊下の設計に配慮を加え体裁は良いが、校門との間が、狭くなった感がある。

続いて残存している剣道場、銃器庫、また南側に存在する物理、化学のなつかしい明治の建物も取り壊われ、大体育館(講堂)の建設工事が始まり、又管理棟の二期工事として一階に美術室、二階に地学室、二階に視聴覚室、書道室が建築される。また文化財である校門と土塀、池の浚渫など県教委委員、上田市への陳情には学校と同窓会が密接な提携をしている。

昭和五十五年同窓会総会は来る六月八日午後一時より校内体育館で開催する。これは同窓会館の修理工事と会館に接続して新築される生徒合宿所の新設のため、映画もとりやめ、講演のみを行う。会の議題は昭和五十五年の事業計画と予算等の承認を求むる件等と役員選挙、八十周年事業報告等であるが、昨年は収入の26%の維持会費二百九十四万円で、会計が維持された。今年も維持会費一口一千万円の応募をお願いします。昨年と同様に今年も昨秋と今春勲章を貰われた先輩の祝賀会を懇親会に併せて行なう。多数の出席を期待する。

- (第33回卒業生代表柳沢理一郎)
- 一、学校位置表示碑 一基(第38回卒業生代表宮崎盛登)
- 一、ストップウォッチ(精工クォーツデジタル)一個(第36回卒業生山崎益男)一個 同卒業生滝沢武)
- 一、卒業記念樹代金二万五千元(第78回三年四組卒業生一同)



●すし・料理の専門店●  
**すし・料理**  
電話 上田0268(22)0128

社長 米津福一 (53回)

安全とサービスを保って20年



営業品目 LPG・配管・器具・冷暖房工事・防災器具

## 長野プロパンガス株式会社

- |        |                                   |
|--------|-----------------------------------|
| 本社 上田店 | 上田市大字国分542番地<br>TEL 0268(22)5518代 |
| 松本支店   | 松本市美須々7の1番地<br>TEL 0263(32)4652代  |
| 諏訪支店   | 諏訪市湖南字大曲222<br>TEL 02665(2)4353   |
| 広丘工場   | 塩尻市広丘野村<br>TEL 02635(2)0672       |
| 長野営業所  | 長野市中<br>TEL 0262(43)5307          |

# 温故知新

校長 新津真澄

学校では、去る四月三日入学式を行い、全日制三七八名、定時制九名の新入生を迎え入れて、新年度を発足しました。なお、三月に送り出した第七八期卒業生も前年に劣らない進学成果を挙げてくださいました。本年度は、特に創立八〇年の記念すべき年に当りますので、この機会に遠く明治に溯り、同校前後から今日までに築きあげられた輝やかしい歴史や、永年にわたって培われて来たゆかしい伝統を、改めて銘記し今後に処したいと考えます。

昨年度から本格的に実施して来た校舎全面改築工事も順調に進み、三階建の管理特別教室棟(一三六五㎡)も八月には竣工の予定です。引続いて、明治の懐かしい建物である剣道場、理科棟や戦後の二階建三〇番教室棟が姿を消し、その跡地に管理棟の残り五分の一と大体育館および生徒部室が着工されます。また、格技室の調査設計も行われます。更に、上田市の文化財に指定されており、校門、土塀の補修とともに、堀のしゅんせつ工事も市の援助をいただいで年度内に完成の予定です。なお、記念事業実行委員会による生徒合宿所等の建設をはじめ、多彩にわたる事業が計画推進されていることを見聞するにつけても、この時に在職、在学する職員、生徒の喜

# 祝賀会の開催など

総務委員長 水野春海

びと感激はひとしお深いものがあります。そして、同窓の皆さんのあたたかい母校愛に感謝の念を捧げながら、これら諸工事の完成と記念式典等で先輩の皆さんとの交流の出来まことを楽しみに期待しております。

私たちは、校舎こそ近代化されたものになりますが、由緒ある校門、土塀は往時の姿そのままに残される中であって、まさに温故知新、至高の望と至剛の時を堅持しつつ、上田高校が名実ともに充実飛躍することが出来るように、また、各方面からの期待に応えるべく、理想の学園実現に努めたい所存です。

去る三月の理事会及び幹事会に於て、記念式典を今秋十月十二日(日)に行うことを決定致しました。この時期には未だ大体育館、柔剣道場の格技室、音楽室等の校舎改築工事が進められている最中になりますが、最終的な定時制専用教室棟が完成するのは五十七年未になる見込みで大変遅くなりま

この四月中に、同窓会及び学校職員PTA等により約五〇名の式典委員会が新しく発足します。このうち十数名の方々により小委員会を設け、記念式典に向けての諸準備について企画推進することになっております。

# 創立八十周年記念事業

同窓会理事長 柳沢文秋

昭和五十四年六月同窓会総会で決定された創立八十周年記念事業委員会役員は左記の通りである。

- 委員長 同窓会理事長 柳沢文秋
- 副委員長 同窓会副理事長 笠原正巳
- 鈴木 俊

- 同窓会関東支部長 矢島五郎
- PTA会長 伊藤博兵衛
- 上田高等学校長 新津真澄

次に記念事業実施委員会の委員

職員PTA等により約五〇名の式典委員会が新しく発足します。このうち十数名の方々により小委員会を設け、記念式典に向けての諸準備について企画推進することになっております。

記念式典は学校行事に組まれており、全校生徒職員が列席します。来賓及同窓生と共に参会者数は千数百名を超えることが予想されます。このため理事会原案としては、式典は上田市民会館に於て開催し、そのあと一般参会者には学校付近に移動していただき、新装の管理棟及び校門土塀等校舎内外の見学、並びに同窓会館の改修状況と会館に接続新設される生徒合宿所等をご覧いただいた後、

このたび募金委員長をお引受けして以来、三回に亘って幹事・募金委員会合同会議を開催すると共に同窓会本部総会、関東支部総会・幹事会等に出席して募金に関して全面的な協力をお願いしてまいりましたが、お蔭様にて着々進行しております。目標額八千万円に対して、五月三十日現在五千七百万円を超えて七〇%に達した現状であります。ご承知の通り今回の募金は卒業期毎に目標額を設定し、幹事の方々を中心として毎毎に募金運動に協力願うことを基本態勢としていますが、四月現在既に目標一〇〇%を超えた期が九期、八〇%以上が十期となっております。残念なことに未だ五〇%に満たない遅れている期が二十三期もあり、満足すべき状態ではありません。

その上最近月を逐って諸工事が完了し、当初予算の二割増の募金が出来ない状況となって来ました。このため、去る三月二十四日の幹事、募金委員会合同会議に於て、各期の目標額の二〇%達成についてご了承をいただいた次第です。募金委員会としては目標額を一億円に修正し、四期 正副委員

# 募金の状況

募金委員長 柳沢理一郎

長が中心となって、地域の地方自治体・有力者、或は大口法人等の会友募金を開始しております。どうか遅れている期に於かれては早急に対策を立てられるなど、格別のご協力の程を切にお願いする次第であります。

尚、関東信越国税局より公共事業に対する指定寄付の認可を得ており、五万円以上(個人法人共)の寄付者に対して証明の領収証を発行致しますので、必要の方は事務所へお申出下さい。五万円以上寄付者には名簿を、十万円以上の寄付者には名簿と校史を無料で贈呈します。

# 名簿発行近し

金子八郎

記念事業の一環として計画された「上田高校同窓会名簿」は七月初旬発行を目途に、最後の校正に取り組んでおります。前回、昭和四十七年発行名簿には一九、一七三名の会員を登録しましたが、今回は二二、〇〇九名に会員が増加しました。事務局は正確に見易い、割安の名簿作成を目的として、九十数%の会員の動静を把握しました。

配布価格は理事会で一冊三千円(送料を含む)と決定しました。前回は金二千円で四千部発行しましたが今回は五千部発行と致しました。前回の名簿は現在一冊もありませんので、今回も売切れになる怖れがありますので、前金でお申込下さい。なお、五万円以上寄附者には無料差上げの規定になっております。

# うまい酒 和田龍

醸造元 和田龍酒造株式会社

取締役社長 和田 晋(20回)  
専務取締役 和田 智晴(51回)

上田市中心西1丁目14-14  
電話(22)0461

# 施設関係記念事業

施設委員長 西川 秀栄

県の高校々舎整備計画に基づき老朽校舎の全面改装に併せ、創立八十周年記念事業として、新しく生れ変わる鉄筋校舎と調和のとれた環境整備計画が次のように計画されています。

(1)造園環境整備一七五〇万円  
現在校舎改装工事が進行中であり、新校舎の造園事業は遅れますが、校門、土塀、堀の改修工事は文化財であるので、上田市と県教育委員会と連絡をとり、公費で完成の予定である。しかし一部造成出来る部分に就いては長野造園協会松井慶三郎(第30回)技師の御指導により実施予定

(2)土蔵の移転改修 二〇〇万円  
校門に入って新しい鉄筋校舎に至る間に、古い建物が全くないので、旧藩時代の土蔵を校門を入った右側に移転改修する。

(3)同窓会館の改修と合宿所の移転改築 四千万円  
現在校地の東京にある木造の合宿所は役に立たないので改装が計画されたが、敷地が狭いため、同窓会館の南側空地に会館同様に鉄筋コンクリート造りとし、尾島正吉(40回卒)技師の設計で建築され、これと同時に同窓会館の修理が行われる。既に四月五日入札により藤森組が工事を担当すること

になったが当初の見積りより物価高騰により20%の工事費の増加が見込まれている。

## 記念誌委員会経過報告

記念誌委員長 遠藤 恭介

昭和五十三年十月六日第一回記念誌、資料編集委員会が開催され、正副委員長の互選、委員会の任務の検討を行った。第2回記念誌委員会では昭和五十四年二月二十七日開催に、次の事項に就いて協議。

一、記録映画作成の件  
校舎改築のため、五十四年七月から本館、講堂、控室など創立以来の建物が撤去されるので、学校行事、運動部の活動、同窓会の記録等の映画を作成することに製作を田中豊雄(36回卒)に依頼することにし、新入生入学式の模様を初め、作成が進行している。

一、資料室開設、記念誌刊行  
資料編集委員会と協同で、校友全誌、生徒全誌、書簡、その他の資料を同窓生各位にお願いし、信州民報に広告したところ、各位から多数の資料が提供されて来た。己に上田高校の沿革は已に要則中学として明治八年八月六日に認可され、県下では松本より一年早

尚、植木、総寄贈を頂ければ幸甚です。

創立八十周年記念事業に寄附金をお忘れなく。

## 資料募集情況

資料募集委員長 小林 軍司

上田高校創立八十周年記念事業として、校史の編纂の大事業があるが、その資料を募集し、又集積資料を永久に保存するために、現在迄に三回の委員会を開き、趣意書と同窓会員に配布し、募集した結果は次の通り。

- 教科書 三九六冊 九人
- 校友会雑誌 七六冊 六人
- 松籟 三九冊 二人
- 報国雑誌 七冊 一人
- 尚志 雑誌 六冊 三人
- 同志会雑誌 一〇冊 五人
- 松尾校新聞 一三枚 一人
- 作文集 一冊 一人
- 写真 二五葉 六人
- 試験答案紙 グラフ用紙 一人
- その他編上靴、ラケット、剣道用具、雑記帳、授業料袋、賞状、日記等多岐にわたって、篤志者のご好意によって、寄贈、或るいは借用いたしました。

また、長野県尋常中学校上田支校時代(明治二八、二九年)の「校友」創刊号から六号までのものが市立図書館に保存されているものを複製、製本しましたが本校で現存の本深志高校にもない貴重品であろうかと思っております。

同窓会館改修にあたって、充実した資料室を開設、陳列、保存いたし、同窓生各位の回顧の資ともなり、また、後輩諸君の参考資料とするためにも、土蔵、倉庫等に眠り、埋まっている資料が、未だ多々あろうかと思っておりますので、何んなりとご寄贈あらんことを切望いたします。

特に昭和二十九年発行の「松籟」二号が未集でありますので、特にご協力をお願いいたします。

## 第23期同級会

我々同期生は卒業後五十六年の年輪を経て来た。関東大震災の翌年大正十三年の春、卒業し、長い歳月が流れた。思い思いの道を目ざして散って行った少年時代と老境にある現在とを対比して、感慨無量のものがある。

卒業時一三四名が、現在は六十七名と半減した。年齢相応の健康者は八五%、老夫婦と独り者暮らしは五〇%に近く、核家族時代がわが身に振りかかる。だが、高齢社会の老後生活はこれからと意気こむ者も多い。

同窓会は、戦後の激動期は生活に追われ聞く機会が殆んどなかった。昭和二十二年の春、常田町の「寿」で、続いて二十三年春は松尾町「三楽」(同級の林君の家)で開催。卒業後二十五周年に当る二十四年には名簿を作成、鍛冶町月窓寺で物故会員の慰霊会を営んだ。この年東京支部の総会を開催した。

爾来、四十一年迄毎年同窓会を開き、時には小泉清見、佐藤基浩、依田誠、小林幹の諸先生を招いて謝恩の微意を表わした。

三十九年は四十周年に当り、別所北岡首で物故者の法要を営んだ。以後七年間、会合は断続して開かれ、昭和四十八年は五十周年目に当るので、四月別所温泉で盛大に開催。依田先生を囲み、四十余名が集合し、それ以後会が大発展し、全国集会を毎年春別所で行うと共に、東京でも大森君の世話で二・三年置きに秋開催した。

全国集会のほかに定例会を一、四、七、十月の四回、何れも二十三日(二十三回卒に因る)に上田老人福祉センターで開くことにした。通知を出さずに参加し、入浴、囲碁、将棋、談話等気楽な娯楽的集会をしている。何時も上田市中心の会員十数名が出席している。話題も時代に応じて変化して来ているが、同級会は集まることに意義がある。(中島角太郎記)

## 北海道支部例会

昭和五十四年六月九日、上田高同窓会北海道支部例会が、恩師竹内敬太郎先生を迎えて盛大に行なわれた。場所は札幌市内のホテルニューミヤコシである。

例年この時期には、北大を始め札幌及びその近郊の大学に入学する新入生の歓迎を兼ねて例会が行なわれる習わしである。ところがどうしたかこの年は北大がゼ

口、新入生は札幌大学に入学した鳥君一人という寂しさである。しかし、東工大大学院博士課程在学中の竹内先生の御子息誠君が北大に一年間の内地留学で来ていたのので、結局この日歓迎されるのはこの二名であった。

さて、集った同窓生はほとんどが竹内先生、いや我等が敬太郎先生に何らかの薫陶を賜った人達で

ある。話はずみ、夜の更けるのも忘れた。

竹内先生をホテルにお送りしたのは、時計の針がとうに十二時を廻ってからであった。

当夜の出席者は、支部長の高坂幸男氏(32期)を始め、最長老の山浦隆次郎氏(17期)、(以下敬称略)勝野貞哉夫妻(42期、夫人は元上中職員)、桜井武(43期)、池田孝三(44期)、石井礼一郎(48期)、山浦達郎(19年入学、20年

9月小樽中に転校)、平尾三郎(51期)、小山昭一(51期)、山浦哲水等(54期)、田中健二(58期)堀内章夫(63期)、大谷文昭(65期)、それに元教諭の清水弘氏と、北大在学生の村山、工藤、金沢、岩下他数名であった。

この例会にあたって、同窓会本部及び当夜出席できなかった清水進(35期)、溜田英(8年入学、同年十月金沢二中転校、現信濃会

同窓会はその後二回行われた。一回は自衛隊第11師団長栗田裕夫氏(42期)の着任祝で十二月十一日札幌市ホテル・サンフrawで、今年に入っては三月一日道農業試験所御赴任の宮坂昭氏(43期)の歓迎会と北大卒業の村山、工藤、伊藤(学部)卒業祝をした。(小山記)

# 上田高校同窓会 関東支部の現況報告

(その7)

前号第十三号のこの会報には、関東支部の昭和五十三年度における主なる行事の報告記としたが、今号には五十四年に開かれた各幹事会、会報の発行及び関東支部大会について略述したい。

## ◎幹事会開催について

年間を通じて次の如く冬期代表の幹事会が開催された。

二月八日 幹事会兼新年宴会として開催。池袋の八峰閣にて。出席六十一名、盛会の中に議事もつくし、続いて新年宴会に移り、幹事相互の親睦を深めた。

四月十三日に開催。主として第十八回関東支部大会の計画について議す。農林年金会館にて、出席四十七名。

六月六日、第十八回大会の出欠返信報告や運営策について検討を加えた。出席四十九名。

九月二十七日 第十八回大会の反省会として開催。外に母校創立八十周年記念の募金について議す。出席四十三名、農林年金会館にて。十二月四日、関東支部会報「うへだ」第二十二号の発行と、募金状況の報告も兼ねて開催する。出席五十八名、農林年金会館にて。

昭和五十五年二月十二日、恒例の「幹事会兼新年宴会」として開催、池袋の八峰閣にて。出席五十九名、募金状況報告もあり、次の第

十九回関東支部大会を、六月二十七日(金)午後五時受付開始、六時開会と決定する。会場は虎の門の農林年金会館とする。

……以上の如く六回に及ぶ幹事会が開催され、何れも定刻の午後六時開会、午後八時三十分閉会、午後幹事会員に必ず自己紹介も兼ねて、寸言ではあるが本会に対する意見も述べられていた。常に五十名前後の出席であるから、ほんの三十秒一寸の発言である。しかし幹事諸氏の本会に寄せていた誠意と熱情には深謝の至り、上田高校ならではの感も深い。

◎会報「うへだ」について  
関東支部発行の会報「うへだ」も昨年五月と十一月に、第二十一号及び第二十二号を発行した。創刊号から十一年がすぎた。よぞ継続、編集委員各位に多謝。現在ではベテランの本職新聞記者諸氏もあり、本会員の年会費と広告代をもつて運営も順調である。母校教職員や在校生及び県下の六十有餘校の在京僚友校の同窓会へも贈呈し、相互の親睦につとむる絆は甚大である。

◎関東支部大会について  
今年六月、本大会も第十九回を迎えようとしている。一昨年の昭和五十三年の第十七回大会から、

若き卒業生の出席と糾合に力も入れ、ようやくにその労も報われてきた。特に若き女子同窓生が卒業参加、よく協力もしてくる。幹事会の受付係りは、此等若い女子後輩諸嬢の定着の受持と相成つて、幹事会も大会も、古き大先輩方にとつては、まばゆく楽しい存在でもあるらしい。祖父と孫娘の出合でもある。

昨年の第十八回大会には、新卒業生の第七十七期生を無料招待、且つは、歓迎会とした。三十有餘名の男女新卒業生が出席もしてくれて来賓や本会員を含め、三百有餘名の盛会であった。その大会委員長をつとめてくれた(40)小林郷司副支部長の労や、同期四十期生諸君の助力も専く、また大会委員の協力も大、盛會に終始した。

◎結びに  
東京における長野県下の各僚友校の同窓連合会もあり、その各校との交流もせむし。

本会における各期の卒業期毎の同期会も、それぞれに盛大で友情を温めており、各運動部OB会の各会合も活発、そして同職業者の会合や、ふるさとの同地区出身者の会合もあり、関東支部は楽しく明るい。此等諸会合については次号にゆずるとして、本号への寄稿はこれで結びたい。

(支部長・矢島記)

# 松泳会 (水泳部同窓会)

我々河童達は、古城の門を巢立ち、何年、何十年経つても、春が来ればプールに水を入れ、鳥肌が焚火で暖めたら泳ぎ始めたのを思い出します。そして夏が来れば、もうたまたまなく水が恋しくなり、楽しかった青春を思い、苦しかったプールの練習を懐しく思い出します。伝統ある上田高校水泳部の同窓会を何とか意義あるものとして発足させ、共通の楽しみや苦しみを味わった仲間達が互に励まし合い、親しみ合い、後輩達を激励したい。そして、地域の水泳界にも貢献したい。こんな願いを込めて第一回目の母校水泳部同窓会が昭和五十四年八月十六日に、同窓会館で開かれました。

総勢約九十名、遠くは東京、名古屋方面からも懐しい顔の河童達が次々に参加。往年の神宮大会、国体出場選手、いわば上中、上高の水泳部黄金時代を築いた先輩達の顔は、現役諸君には、さぞ輝かしく立派に見えた事でしょう。

午後二時から池田幹雄氏(47回)の司会で総会。名称を「松泳会」とし、左記の通り役員を決定しました。年一回以上は必ず全員で集まり、現役の後輩達を激励しようといふ誓い、大先輩の松山篤氏(25回)会との挨拶、新津校長先生の祝詞等を頂き、午後三時頃閉会致しました。

総会後、母校のプールに集合、現役諸君と二〇メートルリレー

を競うエキシビジョンを開催、現役組は二人で、二十、三十歳台は四人、四十、五十歳代は八人と云う編成で、山極勝夫氏(49回)の号砲一発スタート、スタンドからヤンヤの喝采、結果は四、五十歳代混合チームの優勝、青春我を見捨てずと大いに気を吐きました。午後四時から親睦会に入り、校歌、応援歌と時のたつのを忘れ、先輩後輩老若酌交の中、つきる事

# 二十六期生同窓会

軽井沢の高原の空気清澄、小鳥啼く木々の芽ぶき爽やか。落葉松の林をすぎて、ほそぼそと道はつづり。白秋の詩碑の奥、会場の星野温泉に集い寄る級友、東から西からの信越線が国際都市、軽井沢駅に停車する毎に、やあ/やあの友の顔がほころぶ。

出席と〇印をつけて返事を寄せた酒井論一君が昨日急逝すとの報にショックを受けたが、やがて夕暮る頃から、写真も撮り、なつかしい友の裏がはじまる。思いなしか今日の校歌も寂歌も、いささか元気が無かった。この部屋にござられた。善く遊び善く学ぶ。の内村鑑三先生の書翰は有名なので記念写真の中に収められてある。石井一美君が自己紹介を兼ねて、わがあゆみを語ってくれた。「石井さん、石井さん」談を言っ

なく、青春の思い出に浸り、誰言うとなく、「我々はハダカのツキアイだ」が合言葉になりました。松泳会は、その後母校水泳部にストップウォッチ二個と国体出場者の応援費を寄贈。益々ハダカのツキアイの和を広げたいと思えます。(阪本誠造(48回)記)

- |     |            |
|-----|------------|
| 役員  | 松山篤 (25回)  |
| 会長  | 山崎益雄 (36回) |
| 副会長 | 滋野礼一 (44回) |
| 会計  | 滝沢武 (53回)  |
| 監査  | 山極勝夫 (49回) |

- |     |  |
|-----|--|
| 幹事  | 池田幹夫 (47回)                                 |
| 幹事  | 阪本誠造 (48回)                                 |
| 幹事  | 小野沢洋 (50回)                                 |
| 幹事  | 田玉隆康 (51回)                                 |
| 幹事  | 竹原基好 (69回)                                 |
| 幹事  | 望月申一 (72回)                                 |
| 幹事  | 以上   |
| 事務局 | 上田高水泳部出身者で名簿もれの方もありますので事務局迄お知らせ頂きましたら幸甚です。 |
| 事務局 | 上田市御所                                      |
| 事務局 | 上田スイミングクラブ内                                |
| 事務局 | 松泳会事務局                                     |

て皆を笑わせた宮原重信君を思い出す。

出席者四十三名、次のとおり。

大石清治、石井一美、松井仁夫、立岩廣平、吾妻良秋、山崎通雄、小山正徳、石井公男、坂田隆雄、佐藤真一、小山達雄、大塚忠雄、小林邦人、馬場義人、竹内丈夫、倉沢周平、工藤一三、福井清作、柴崎章雄、本道知道、坂下清衛、山崎普衛、宮入正道、森田達男、長尾秀次、伴野徳人、今井利貞、宮本昌嘉、南沢忠雄、山本太郎、水科和、峰村一、久保田義雄、横山嵩、小泉寿、小池就、松岡茂、荻原雅、柳田健次郎、清水喜代人、市村志真衛、小木曾速水、田口喜一郎、

以上四十三名。生存者級友の半数が集まったの盛況であった。

多数移動して、例のごとく五十年昔に戻つての語らいに花を咲かせた。この模様をテープに収めた貴重な資料が事務局に保管してあるが、いつか披露することしよう。

更に、夕食前の寸時をとって、昨年の田沢会の模様を馬場義人君が得意の八ミリに収めた美しいつづじの花からはじまる映写には、一同感嘆の声を発し、軽井沢の風物の映画もすばらしい力作であった。翌日の高原は霧の中にあけたが、観光にと四台の車に分乗し、浅間山麓、鬼押出、白糸の滝など見物して別れた。来年は上山田温泉で開催することになり、更に県案で京方面の級友が当番で決行することになった。小林邦人作三句

○軽井沢夏夏の炎親しくて  
○郭公に目覚む七星野のみどりの中  
○鬼押し山の寂莫霧流れ

(長尾秀次記)